令和４年度　学校自己評価の取組の総括

Ⅰ　子どもの姿の変容

めざす子どもの姿		児童の現状（取組前の状態）	年度末の児童の現状（取組後の状態）
知	学習のルールを身につけ、進んで学習に取り組む子	①チャイム前席はできているものの中学年以上では、チャイムと同時に授業を始められる状況に至ってない。 ②友だちの方を見て聴く、相槌をうつなど聴く姿勢はできているが、友だちの話の内容に寄り添って聴く、友だちの考えを聴き出す力はまだついてない。 ③個に応じた表現方法や教科の用語やキーワードを提示することで思考・判断・表現力が身についてきた。 ④友だちの意見について、論理的に思考し、結論付けることに課題がある。	【強み】 ① 児童・教師ともにチャイム前席が定着した。 ② 基本的な聴き方はできるようになってきた。 ③ 人前での発表が苦手な児童も、ノートには自分の考えを書き、ノートを見せながら共有、グループの児童が全体に広げる、ロイロノートで考えを書き、回答共有することで、児童同士で問題解決するなど個に応じた表現方法で考えを広げたり、深めたりすることができるようになった。 ④ 間違った答えを出しても、教師が「〇〇さんはなぜそう考えたのかな？」と問い返すことで児童が陥りやすい間違いに気づいたり、その子の考えを推察して間違えないためのポイントを発言したり、「そう考えるなら、こうなるはずだ」という論理的な思考ができるようになってきた。 【弱み】 ②③④「聴く・話す」について自信をもてない児童がいる。人前で話すのが苦手な児童が一定数いることも確かだが、どのくらいできたらよいのかめざす姿を児童自身が分からないため、「できる」と自信をもって答えることができないのではないかと考える。来年度は、めざす姿を教師だけが持つのではなく、視覚化して児童と共有することが効果的だと考える。

徳	**友だちや周りの人に感謝し、思いやりのある言動ができる子**	①全体的に優しい児童が多い。普段の生活の中では優しさや思いやりが出せていないこともある。 ②過去の事から固定的な見方をしてトラブルにつながるという姿は依然として見られる。 ③下級生には優しくできても同学年には自分から相手を思いやることは難しい児童がいる。 ④自己肯定感が低い児童が一定数いる。 ⑤低・中学年児童についてはあいさつをされれば返すが、自分からする児童が少ない。 ⑥トイレのスリッパをそろえられる学年が徐々に増えてきた。	【強み】 ①全体的に優しい児童が多い。 ②過去のことから固定的な見方をするということはなくなってきている。「〇〇だ」と決めつけず、双方に寄り添う関りができるようになってきた。 ⑤あいさつ運動の取り組みのおかげであいさつを返す意識が高まっている。 ⑥トイレのスリッパに対する意識が高まった。 【弱み】 ①優しさを持っているが、自分からその優しさや思いやりを出せない児童がいる。 ③下級生には優しくできても同学年には自分から相手を思いやることは難しい児童がいる。 ①③SNS によるトラブルがあり、軽い気持ちで人を傷つける言葉を使ってしまう児童がいる。 ④自己肯定感が低い児童が一定数いる。誰かと比べ劣っている部分に目を向けてしまっている。 ⑤あいさつを自分からすることに苦手意識を感じる子がいる。
体	**進んで運動し、健康や食に気をつけて生活できる子**	①晴れの日に教室で過ごす児童は減少傾向にある。 ②規則正しい生活を送れていない児童がいる。 ③給食の残食しない児童が増えた。 ④廊下の歩き方に課題が多くみられた。	【強み】 ①委員会活動のキャンペーンなどの取り組みにより、外で遊ぶ機会を作ったことが効果的であったと考える。 ②保護者などの協力により、生活リズムが崩れることが少ない。 ③食育や委員会活動での取り組みによって、食べ物を残さないようにしようという意欲が高まった。 ④見守り隊など児童が課題に対して取り組む姿が見られる。 【弱み】 ①キャンペーンを行っても課題解決ができなかった。右側通行など基本的な歩き方の指導が必要だと考える。

Ⅱ 本年度の取組への意見

❶　評価規準について
・「自分のことが好きですか」の質問を「自分には良いところがある」に変えることは可能か。児童は自分のウィークポイントに目を向けがちで、良い面を見つめさせる問いにできると前向きに評価できるのではないか。
⇒来年度、人権教育専門部会で検討する。その他の評価規準・基準も目指す子ども像がかわるので、かえていく。

❷　児童アンケートや教員の観察調査について
・ロイロのアンケート方式は分かりやすく良かった。
・教員と児童の感じ方の違いが分かり良かった。
・毎学期行うことで児童の変容が分かり、取り組みがよかったのかどうかが分かりやすかった。
・児童へのアンケートを振り返ることで学級への指導にも活用できた。
・各学年部で発達段階に合わせたアンケート内容だったのでよかった。
⇒来年度も、本年度のように行う。

❸　知・徳・体の評価シートについて
・PDCA サイクルの取組がしやすく良かった。
・取組が意識しやすかった。
・すっきりしていて見やすい。
・部会ごとの役割が分かりやすくてよかった。
⇒来年度も本年度のように行う。

❹その他
・評価基準を明確にし、視覚化して児童・教師が共有することにより、児童の自己評価と教員の観察との差がなくなった。（学指部）
⇒来年度の新評価規準・基準を児童・教師が共有していく。

【学校運営協議会】
・あいさつ隊の取組について、児童のあいさつ隊に対する考えを紹介していただき、今後も続けてほしいとの意見をいただいた。